

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700949		
法人名	株式会社 ゆとり		
事業所名	グループホーム ゆとり		
所在地	三戸郡階上町蒼前東6丁目9-181		
自己評価作成日	平成28年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の思いを汲みいれながら、本人のペースで生活ができるように努めています。 ・午前中のラジオ体操は利用者と職員と一緒にしています。また、座りながらできる体操や、歩ける方は廊下での歩行練習をしています。 ・地域の行事にもできるだけ参加するようにしています。 ・家族との面会はいつでもできるように声がけをしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>下宿を改装し、1階がグループホーム、2階は有料老人ホームの建物であり、合同で行事を行ったり、お風呂も共同で使用している。</p> <p>運営推進会議に地区の区長や民生委員等が参加し、意見や情報の発信等、熱心な応援の姿勢が感じられる。また、地域のグループホームの交流会も開催し、情報交換を行っている。</p> <p>年1回、家族アンケート、2ヶ月に1回、利用者懇談会を実施し、利用者や家族の思いを把握して、それに沿えるように全職員が取り組んでいる。利用者はホールでトランプやカルタ、パズルをして楽しむことも多く、ラジオ体操やホールを歩く等の運動も取り入れ、穏やかな雰囲気でも過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解し、地域の行事や町内の活動に参加している。	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解し、日々のサービス提供に取り組んでいる。3年前、全職員で話し合いの上、理念の見直しを行い、玄関に掲示したり、会議等で確認しながら共有し、日々のケアに反映できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほのぼのの交流会に参加したり、地区の夏祭りに参加している。	町の高齢者交流・地域親睦事業「ほのぼのの交流会」に参加し、授業参観や会食等で小学生との交流もある。また、地域の夏祭りにも参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加等を通じて、ある程度は呼びかけているが、個人のプライバシーも考え、大々的にならないように配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価、家族様アンケート、利用者懇談会のアンケート結果を、運営推進会議の場で報告や話し合いを行い、サービス向上のために意見を取り入れている。	2ヶ月毎に開催される運営推進会議では、ホームの状況や利用者懇談会等の報告をしている。また、地区の区長から、地域の防犯状況や水害の可能性等の情報を得ており、メンバーと意見交換をしながら、ホーム運営に活かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の入退居の状況について、連絡を行っている。また、空床が続いている時は状況を報告している。	役場職員が毎回、運営推進会議に参加しており、相談したり、情報提供をしていただいている。また、空室状況等についても相談し、行政と連携を図りながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員会議で話し合い、勉強会も行っている。また、委員会でも、定期的に、身体拘束の禁止の対象となる行為についても確認している。	本部で行う社内研修会に各部署の職員が参加し、身体拘束について学び、確認をしている。ホームでは、身体拘束を行わないことを基本とし、やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合に備え、記録を残す体制を整えている。また、職員一人の時間帯(19時～7時)以外は玄関を施錠せず、日中はセンサーで、利用者の外出傾向を察知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待防止について研修を行い、職員への教育を徹底している。また、不適切なケアについて各施設で取り上げ、話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の中で、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたって、契約内容について説明を行い、理解をいただいてから、署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、毎月のアセスメントに、家族や利用者の意向を聞いている。また、運営推進会議等でも意見を聞いている。	意見箱を設置し、面会時には意見や要望を出しやすいように働きかけている。また、年1回の家族アンケートの実施や毎月の通信の送付、2ヶ月毎の写真入りの広報紙も発行により、ホームでの利用者の暮らしぶり等を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月実施し、職員からの意見や提案を聞いている。また、毎朝のミーティングでも意見を聞いている。	ミーティングや会議等、職員の意見や要望、勤務希望等を聞く機会を設けている。また、ホーム内で解決できない事柄は本部に報告し、相談している他、職員が希望する研修の受講や、資格取得ができるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた勤務の調整等をしている。また、研修の参加等の声かけをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や自主勉強会を行い、その機会に、技術の確認も行っている。また、外部研修への参加も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設毎に、2ヶ月に1回、勉強会や意見交換会を開催している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の希望があった時は、本人と面会を行い、心配な事や困っている事、要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の希望があった時は、施設の見学をしていただき、不安な事や困った事、要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをする時に、利用者や家族の要望を聞き、サービスに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	2ヶ月に1回、利用者懇談会を開き、入浴、食事等の意見を聞き、反映するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでもできる事を、入居時に伝えている。また、運営推進会議への参加を促したり、毎月、要望等を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加の声かけや、家族との面会はいつでもできるように、声かけをしている。	家族や友人が訪ねたり、電話等ができるように支援している。また、地域の行事や馴染みの場所にも出かけ、これまで関わりのあった人に会えるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、孤立しないように、職員が間に入って話を聞いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービスを終了した利用者にも関わり、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のアセスメントの際、本人からの要望を聞き、できるだけ沿えるように支援している。	入居前にアセスメントを行い、利用者の生活環境や趣味等を把握している。また、2ヶ月に1回、利用者懇談会を開催し、食事やおやつ、お風呂、希望・要望等を聞きとり、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まった際にアセスメントを行い、これまでの生活環境や趣味等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い、心身の記録を行っている。血圧等が高い時は必ず再検を行い、部屋で休んでもらっている。また、できる事は見守りをしながら、日常生活を送ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成する時は、利用者や家族の意見は勿論、利用者に関わる関係者の意見も反映できるようにしている。	利用者の意見や要望、家族の希望等も聞き、全職員で話し合いの上、介護計画を作成している。入居後、1ヶ月毎に見直しを行うが、その後、落ち着いて変化がないようであれば1年毎、または介護保険の期間で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録に、利用者について気づいた事や体調等を記録に残し、1ヶ月毎のアセスメントの際に見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のアセスメントの際、様子や状態の変化があったことを、職員同士で話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ地域資源を活用できるように、ほのぼのの交流会に参加したり、地区の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医をかかりつけ医としている。また、医療と連携し、体調不良時には連携を図っている。	かかりつけ医を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。殆どが職員の受診介助であり、受診結果は通信で報告している他、変化がある時や緊急を要する場合には、電話で報告している。また、体調等に不安がある場合は、本部の訪問看護師に相談できる体制である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送り時に、利用者の体調の報告を行っている。また、異常時は本社の訪問看護師と相談を行い、受診の必要な時は支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者の情報は適切に医療関係者に伝えている。また、入院後も、利用者の状況を医療と確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、家族の意向を尊重していくことを伝えている。	重度化や終末期の対応についてホームの方針を示し、家族に説明をしているが、医療体制や職員の意識等、終末期の対応ができる環境が整えられていないため、対応はしていない。ホームでは、AEDの設置や救急救命講習会に参加する等して、急変時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会に参加しており、参加をした職員は職員会議で報告を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の法定避難訓練と毎月の自主訓練は行っているが、地域の方の参加は得られていない。	日中や夜間を想定したマニュアルを作成し、年2回、避難訓練を実施している他、毎月、自主訓練も行っている。運営推進会議では、地区の区長から「川は無いが池があるので、水害が起こり得る」との話があり、災害について認識を深めている。また、チラシを配布する等して、近隣住民に災害時の協力を働きかけている他、カセットコンロやストーブを用意し、飲料水や食料品は本部で保管・管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のペースに合わせた対応を行っている。	利用者が自分のペースで過ごせるよう、一人ひとりを尊重した支援に努めている。利用者は名字に「さん」付けで呼び、同姓の方がいる時は了解を得て、後に入居された方を名前で呼んでいる。また、広報に写真を掲載しているが、使用目的等を家族に示し、了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけをする時に、利用者から意見が出るようにしている。また、職員から先に決定しないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを重視して、個別に対応している。また、計画に反映できるように、本人の思いを毎日の記録に残している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装は本人の好みに合わせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調に合わせて、片付けの手伝いをしてもらっている。	給食委員会では毎月アンケートを行い、食事の味付けや好み等に配慮している。普段は本部で作った食事が運ばれ、ホームではご飯やみそ汁等を調理しているが、納涼祭や誕生日等の行事の際は、利用者の好みの食事を職員が作り、食事を楽しめるように取り組んでる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量と水分量の記録を行っている。また、利用者に合わせて調理方法で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、自分で義歯を洗える利用者には見守りをしながら、仕上げは職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行っている。また、訴えがある時は、その都度対応している。	一人ひとりの排泄パターンを記録して把握しており、事前誘導、または訴えがある時に誘導する等、自立に向けた支援を行っている。夜間も無理に起こさず、汚れたら交換する等、柔軟な姿勢で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食事の工夫を行っている。また、3日以上排便がない時は、職員間で情報を共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決められているが、本人の体調や気持ちに合わせて順番を決めている。	浴室は2階の有料老人ホームの利用者も使用するため、入浴日を決め、週2回としているが、利用者の体調や気分に合わせ、柔軟な支援に努めている。また、利用者の好みの温度等も考慮しながら、二人介助で、安全にゆったりと入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自分の居室で休めるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルに薬情報が付いており、いつでも薬の情報が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる事を把握し、洗濯物たたみや、趣味が同じ利用者同士で気分転換を図っている。また、会食行事等の計画を立て、行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者懇談会で利用者から出かけたい場所等を聞き、意向に沿えるようにしている。また、家族との外出も支援している。	利用者の行きたい場所を把握しており、日頃からホーム周辺を散歩したり、花見は植物公園に、外食は道の駅や回転寿司等へ出かけ、利用者が楽しめるように支援している。また、外出の際はホームの車両を使用し、1台で不足の時は、本部の車両を借りることができる体制である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は5,000円程度としている。それ以上の金額の所持については家族へ伝え、控えていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から申し出があった場合は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には季節感のある飾り付けを行い、変化を持たせている。また、共同の場所には毎月カレンダーを作り、季節の飾り付けをしている。	ソファやテーブルを置き、家庭的な雰囲気づくりに配慮しており、壁には利用者手作りのちぎり絵のカレンダーを飾る等、季節が感じられる工夫も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後はソファで寛げるように、声がけをしている。また、新聞を読んだり、テレビも本人の希望に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、本人の好きな物を置いたり、使い慣れた物を持って来てもらっている。	学生の下宿を改装した部屋で、ベット・押入れ・FFストーブが備え付けとなっており、各自愛用の寝具を持ち込んでいる。また、藤の整理タンス・時計・ラジオ・位牌等、以前から使用していた物品を持ち込み、落ち着いた暮らしができるよう、居室づくりを行っている他、ベットから転落の危険性の高い利用者については、家族と相談し、畳の部屋を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者と一緒にトイレの標識を作ったり、部屋の名前をそれぞれに花の名前で付けている。		